

	名称	所在地	建築年代	登録基準
1	和歌山県建築士会館	和歌山市 ^{ぼくはんまち} 下半町 3 8	昭和 41 年 (1966) / 平成 25 年改修	二

※登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
二 造形の規範となっているもの
三 再現することが容易でないもの

和歌山県建築士会館は一般社団法人和歌山県建築士会が所有するオフィスビルで、和歌山市^{しほり}下半町 38 番地に所在する。市堀川北岸に建つその敷地は、川の河川敷であり、近世では荷上場であった。

和歌山県建築士会は昭和 27 年 (1952) に設立され、しばらく他の設計事務所内に場所を借り、事務局をおいていたが、昭和 36 年 (1961) の総会・理事会で新たな会館の建設が決定された。建設資金は会員協力金と銀行借入によるもので、士会独力による資金調達であった。

建設予定地は県有地であったため県から払い下げを受け、昭和 40 年 (1965) 5 月 26 日に起工、昭和 41 年 (1966) 11 月 5 日に竣工した。設計は^{とまつ}富松建築設計事務所 (意匠設計担当)、^{さいか}雑賀建築設計事務所 (構造設計担当) の共同によるもので、施工は^{はらしょうぐみ}原庄組、建設費総額 3750 万円であった。なお、意匠設計を担当した富松助六は後に和歌山県民文化会館を設計する。

会館は、鉄筋コンクリート造 3 階建て、市堀川の河川敷に昭和 41 年に建設された。正面、背面にタイルを張り、真四角の窓を整然と並べ、側面はコンクリート打ち放しで仕上げた平明なモダニズムの外観である。全体に凝った意匠は見られないが、柱と壁面を分離し、窓をタイル割りに合わせ、外観を整えるため立樋を内樋にしたことにより、軽快かつ細やかな外観を形作る。西側面は会館の看板を切り文字で掲げ、ともすると単調な壁面を引き締めている。

このような会館の外観は、戦後モダニズムオフィスビルの一つの典型的な姿であり、現在もその姿は良く保たれている。意匠設計担当は、当時和歌山を代表する設計事務所の一つであった^{とまつ}富松建築設計事務所 (代表富松助六 (1919~2008 和歌山県生まれ、代表作に和歌山県民文化会館 1970 年がある)) であり、現存する富松の作品の一つとしても貴重である。

きたやまけじゅうたくおもや
北山家住宅主屋

	名称	所在地	建築年代	登録基準
1	北山家住宅主屋	和歌山市和歌浦南2丁目 1658-4	昭和前期	一

※登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
二 造形の規範となっているもの
三 再現することが容易でないもの

北山家住宅は和歌山市和歌浦南に所在する近代の住宅である。和歌浦南は片男波の砂州に向かって形成された住宅街で、北側には商店街である明光通り^{めいこう}がつながる。和歌浦は古来より景勝地として知られていたが、近代には関西の別荘地・行楽地として発展した。以降昭和前期にかけ新和歌浦の開発もあり、多くの人々が和歌浦を訪れ賑わった。

北山家住宅は元は大谷家の住宅として、昭和前期に建設された。大谷家は水産加工業を営み、明光通りで販売する押寿司を作っていたという。昭和前期に家業は成功を収め、当時千両普請といわれるこの住宅を建設した。

住宅は和歌浦南の住宅地を北西から南東へ抜ける通りの角地に、北西面させて屋敷を構える。主屋は通りに面して北西面して建ち、その西側には駐車場があり、屋敷内南東には庭園が造られている。

主屋は木造二階建、入母屋造、瓦葺の建築である。外観は建ちが高く、一階は真壁造^{しんかべ}、漆喰塗、二階はサイディングを張った大壁造であるが、かつては漆喰塗であった。一階正面は出格子を構えている。出格子まわりは、桧の良材が用いられている。

一階は庇^{だしげた}を出桁造とし、一文字瓦で葺く。二階の大屋根の軒は出桁造とはせず、瓦で葺き、屋根には緩いむくりが付けられている。

一階各室は大引天井とした実用的な部屋であるが、二階には良材を用いた八畳の座敷を構える。床の間まわりは端正な意匠で、床框は黒柿、床柱は杉の磨き丸太とする。床脇には、違い棚、天袋を設えている。桧の良材が駆使され、長押^{なげし}を打ち、天井は二重回り縁とし、竿縁^{さるほおめん}は猿頬面を取る。天井板は杉の笹杵板を張る。

建築年代は不明であるが、90年程前の建設と伝わる。良材を用いた質の高い近代和風の住宅で、外観は過度な装飾要素はないものの、一階の出格子窓や一文字瓦の庇が正面意匠を引き締め、和歌浦南の歴史的景観の形成に寄与している。

旧チャップマン邸

	名称	所在地	建築年代	登録基準
1	旧チャップマン邸 おもや 主屋	新宮市新宮字上熊 野 7677-2	大正 15 年 (1926) / 平成 30 年改修	二
2	〃 いしだん いしがき 石段及び石垣	〃	大正 15 年頃	一

※登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
二 造形の規範となっているもの
三 再現することが容易でないもの

旧チャップマン邸は、東京の文化学院の創設に関わり、大正期住宅改良で活躍した新宮市出身の建築家、また教育家であった西村伊作（1884～1963）が設計し、大正 15 年（1926）に建設された。

チャップマン（E.N.Chapman 1888～1972）は、米国長老派教会から派遣された宣教師で、大正 6 年（1917）来日、大正 9 年（1920）から昭和 15 年（1940）の間、新宮に定住し、ここを基点としてプロテスタントの布教に努めた。住宅は新宮の住宅街の西村の自邸（現・重要文化財旧西村家住宅）の筋向かいにあり、チャップマンは西村の家族とも親しく交流したという。

住宅はその後所有者が推移し、一時旅館としても使われたこともあったが、平成 27 年に新宮市が取得し、整備を行い、平成 31 年 4 月より観光交流施設として公開活用されている。

主屋は木造二階建、切妻造り、スレート（硬質木片セメント版）葺きの洋館である。建物のほぼ中央に正面玄関・ホールを設け、そこを動線の要として各部屋に通じる。一階は南東の部屋をリビングとし、南に半八角形のベイウインドウ、西に暖炉などを配し、北側はダイニングに続く。西村が提唱した居間中心型の住宅となっている。

二階は階段ホールを中心として寝室の他、学習室、浴室、などからなっている。主寝室は南にバルコニーを設けている。

主屋外観は全体には装飾を抑えながらも変化に富んだ外観で、西村の作風を伝えている。

敷地の外郭の石垣や導入となる石段も主屋と同時期に造られたもので、石張りの門柱を立てている。

この住宅は、西村伊作設計の住宅遺構の一つとして重要であり、向かいあって建つ重要文化財旧西村家住宅とともに、歴史的景観を形創っている。

令和2年3月 新たに登録が答申される建造物



1. 和歌山県建築士会館
正面全景



2. 和歌山県建築士会館
市堀川よりみた全景



3. 北山家住宅
主屋の全景（中央の建物）

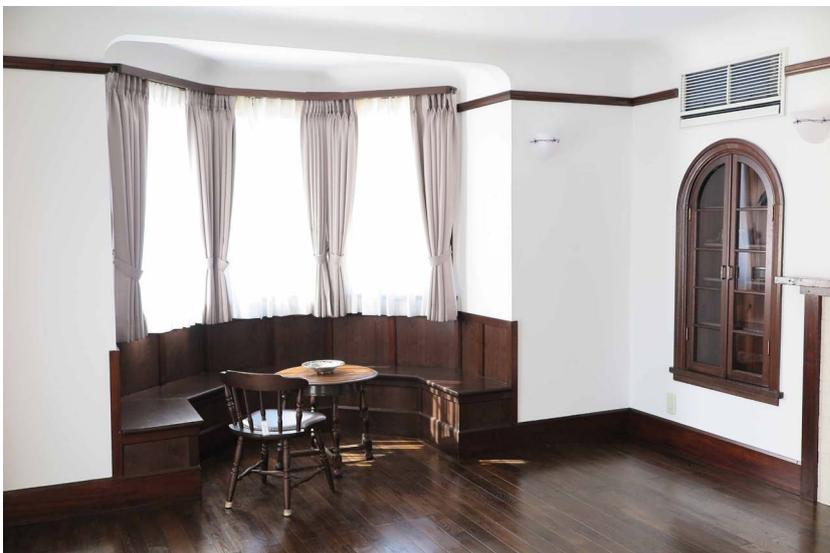


4. 北山家住宅
主屋正面玄関



5. 旧チャップマン邸
主屋正面外観

※写真使用の際は下記を注記
「新宮市教育委員会提供」



6. 旧チャップマン邸
主屋1階内部

※写真使用の際は下記を注記
「新宮市教育委員会提供」